

1 教 育 目 標

(1) 本校の教育目標

知・徳・体の調和のとれた教育を進め、明るく、たくましい立南っ子を育てる

くめざす児童像>

- 明るく、じょうぶな子ども
- よく考え、工夫する子ども
- 進んでとりくみ、やりぬく子ども
- 友達のことを考え、助け合える子ども

- 相手の立場で考え、自分で気付いて行動できる
「優しさ」「気配り」「思いやり」
- 進んで取り組み、自分に負けない
「粘り強さ」「たくましさ」

(2) 経営方針

子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高める
「学びいっぱい」「やさしさいっぱい」「元気いっぱい」の笑顔あふれる学校を目指す

- 学びいっぱい【確かな学力】
 - ア 「学ぶ楽しさ」と「分かる喜び」を大切にした学習指導の充実
 - イ 現職教育の充実
- やさしさいっぱい【豊かな心】
 - ウ 体験・交流活動の推進
 - エ 家庭・地域との連携及び小中・小小・幼保小連携
- 元気いっぱい【健やかな体】
 - オ 命を大切にする安心・安全な学校づくり
 - カ 子どもたちの基礎体力を養い、心身の調和的発達を図る
 - キ スマートに働く意識を高める

(3) 本年度の重点努力目標

キーワード 一人一人が輝く 立南っ子

【た】：高みを目指し 【つ】：強い心と体で 【なん】：何でも一生懸命がんばる子

授業や学校行事等を通して、一人一人が輝く場面を大事にし、できたことをほめ、成功体験を刻み込むことで、子どもたち自身に成長を実感させる。保護者、地域、教職員ともに子どもたちの成長を喜び合い、自己肯定感・自己有用感の高い、明るく、たくましい子どもを育てる学校づくりに取り組む。

ア 「学ぶ楽しさ」と「分かる喜び」を大切にした学習指導の充実

- (ア) 全ての教育活動で生きる力を育むために、E S Dカレンダーを活用し、S D G s の理念を取り入れた授業づくりを推進する。
- (イ) G I G Aスクール構想を受け、I C T機器の効果的活用の日常化、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。
- (ウ) 子どもたち一人一人の個性や能力に応じた指導に心がけ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- (エ) 読書タイムの設定や市立図書館の巡回図書等の利用により、読書環境を整え、本を読むことの楽しさを味わわせることにより、読書が好きな子どもを育てる。
- (オ) 子どもの困り感に寄り添い、どの子も充実して学習活動に取り組めるよう常にユニバーサルデザインを意識した学習活動の展開に心がける。
- (カ) 家庭との連携を図り、家庭での学習課題を適切に課したり、発達段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりすることで、自ら学ぶ姿を育む。

イ 現職教育の充実

- (ア) 多様な人々との協働を促す授業・行事を行い、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
- (イ) 外部講師による学校コンサルテーションを通し、教師が日々児童に対応する中での困り感を解消し対応方法を学ぶことで、特別支援教育の充実を図る。
- (ウ) 児童会を中心とした自治的能力の向上を図ることで、児童の自己決定の場を多く設定し、自己実現の喜びを味わうことのできる学級づくり、学校づくりについての研究を計画的に推進する。

ウ 体験・交流活動の推進 ～絆づくり～

- (ア) 異学年間の交流、保護者・地域の方々との交流等を通して、人と人とのつながりを大切にし、豊かな心と社会性を育てる。
- (イ) 地域素材を教材化し、保護者・地域の方々と交えた体験的な学習活動を積極的に取り入れる。
- (ウ) 特別活動を要としたキャリア教育の充実を図り、児童に夢や希望をもつことの大切さを伝え、自己肯定感、自己有用感を育てる。

エ 家庭・地域との連携及び小中・小小・幼保小連携の促進

- (ア) 保護者との緊密な連絡、学年通信・懇談会・地域訪問・学校ホームページなどを通して指導方針や計画、児童の様子など学校の情報を家庭・地域に発信し、学校教育への協力体制づくりに努める。
- (イ) 学校と家庭が同じベクトルで子どもを育てる意識を高める。
- (ウ) 小中連絡会を通して、立田地区三校の連携を図る。
- (エ) 特別な支援を要する児童にかかわる関係諸機関とのつながりを大切にし、定期的にケース会議等を開き、共通理解を深める。
- (オ) 修学旅行や野外活動などの行事を通して、立田北部小学校高学年児童との触れ合いを深め、スムーズな中学校への移行を図る。

オ 命を大切に作る安心・安全な学校づくり

- (ア) 防災教育・防犯教育・健康教育・安全教育・食育の充実を図り、自分の健康や命を自分で守ろうとする態度を育てる。
- (イ) 特別の教科道徳や人権教育の充実を図り、心の教育を推進する。
- (ウ) 新型コロナウイルスをはじめとする感染症について、健康教育を通して、正しい知識をもち、予防や感染防止のためにどう行動すべきか、子どもたちが自ら実践できる力を育む。
- (エ) 全教職員の誰もが子どもたちの担任と捉え、児童の心に寄り添うように心がけ、学校が安心して過ごせる居場所になるように努める。

カ 子どもたちの基礎体力を養い、心身の調和的発達を図る。

- (ア) 体育の授業で継続的な体力向上を図る取組を行う。
- (イ) 体力テストの結果から課題を見つけ、調和のとれた体力向上を図る。
- (ウ) 青空タイムでの異学年交流や集会を通して、仲間と運動する楽しさを体感できる取組を行う。

キ スマートに働く意識を高める。

- (ア) 会議（職員会議）の終了予定時刻の設定、資料の事前配付・要点を絞った提案をする。
- (イ) 校務支援システム活用による職務内容の精選、教材・資料の共有を行う。
- (ウ) ブロック主任制を取り入れ、職員間の仕事の「のりしろ」を広くし、協力・連携して働く意識を高める。
- (エ) ワークライフバランスを意識し、人としての魅力を高める。
- (オ) 情報を共有化し、教職員の学校経営参画意識を高め、チーム立南として協働する体制を整える。